



雨でも：
きっと晴れるさ。

2/11
全国ロードショー!

キツッキと雨 公開記念インタビュー!

役所 広司 小栗 旬

沖田修一 (監督)

『南極料理人』 沖田修一監督 最新作！

役所広司・小栗旬 初共演！

第24回東京国際映画祭 審査員特別賞受賞

第8回トバイ国際映画祭 最優秀男優賞・脚本賞・編集賞3冠受賞

雨でも・・・ きっと晴れるさ。

無骨なキコリと気弱な映画監督のちょっといい出会いー。

クスクスって笑って、雨がやんだら少しだけ温かい気持ちになって...

雨のちの晴れのほんわかムービー。

年齢も価値観も自分と異なる人生の人と出会ったら...関わりたくないと思ったり、意外にも新しい出会いが、停滞気味の日に晴れ間を射してくれることもある。そんな日常を、片田舎の年配の木こりとデビュー作の撮影に四苦八苦する新人監督の青年との交流をとおり、小さな山村を舞台に映画の撮影隊と村人たちとのおかしくも温かい関係を、『南極料理人』の沖田修一監督が描く。

素朴で無骨な木こりの克彦役に役所広司、プレッシャーに耐える新人監督の幸一を小栗旬が演じ、初タッグが実現。共演に高良健吾、臼田あさ美、ベテランの伊武雅刀、さらに山崎努など豪華キャストが顔を揃える。下を向きがちな時、「絶対良いことがある！」と元気が湧いてくる、みんなで作った温かい映画ができあがりしました。



役所広司【岸 克彦／木こり】



―脚本を読んだ最初の感想はどのようなものでしたか？

「映画作りのなかで、みんなが力を合わせていく過程がユーモアを交え描かれていて、ものすごく感動的な脚本だと思いました。映画作りのロマンがふんだんに盛り込まれているところもいいですね」

―克彦という役柄を演じるために、気を配っていたことは何ですか？

「ひとつには、子どもを持つ親としての思いです。克彦は自分の子どもには下手な愛情表現しかできないんですが、その分、違う青年に子どもへの思いを伝えていく。そういった親子のぶきっちょさがまず大事なんだろうなと。映画作りという夢の虜になっていく、どこかお祭りに参加しているような気分も出せばいいなと思いました。克彦にとって、それは今まで出会ったことのない、自分を燃やすような体験なんですね」

―小栗さんとの共演はいかがでしたか？

「小栗くんというといつも颯爽としているイメージがありますが、今回は頼りない役柄を楽しんでやっていたんじゃないですか（笑）」

—今作ではゾンビ映画の撮影シーンにも初挑戦していますが。

「ゾンビの扮装ができるのを楽しみにしていました（笑）。劇中劇として撮影する映画には非常にカルトな雰囲気がありますが、河原や草原にゾンビが出てくるだけで、スクリーンがちょっと魅力的になるんですね。そういうところが、沖田監督はとても上手いなと思いました」



小栗旬【田辺幸一／映画監督】



一脚本は沖田監督のオリジナルですが、最初に読んだ時の感想はいかがでしたか？

「おもしろいと思いましたね。ゾンビ映画の裏側が見えるっていうだけでおもしろいじゃないですか。よくそんなところに目を付けるなって。いざやってみるとすごく変わった話でしたけどね（笑）」

一幸一という役柄をどう捉えていますか？

「沖田監督は『気にせず楽しんで』と言ってくれましたが、キャラクターはまるまる監督だと思います。

すべて監督のクセなんです、爪を噛むのも、腕を噛むのも。確かに、幸一は気が弱いかもしれませんが、そこまでおどおどしてるわけではないんです。まわりのペースに対応しきれなくて、置いてかれているだけ。幸一のそういうところが見えればと思って演じていました」

一役所さんとは今回が初共演となりますが。

「役所さんはとても素敵なお方ですね。現場でいろいろな話をさせていただいても、すごくおもしろい。 克彦さんの役柄も素敵なので、やってるうちにだんだんふたりがダブってきました」

—幸一と克彦の関係性そのものも素敵ですね。

「幸一は、克彦さんと出会うことで少しずつ変わっていきます。そこに徐々に何かが生まれてくるんです。苦痛しか感じていなかった幸一に希望のようなものが芽生えるんですね」



監督 沖田修一



一本作はオリジナルの企画脚本ですね。

「もともと『南極料理人』が完成する前から、共同脚本の守屋（文雄）くんと話していた企画なんです。

最初は映画マニアの青年が60歳の映画監督と交流するという話だったんですけど、途中から逆の方がおもしろいかなと。劇中劇として登場するゾンビ映画は、60歳の監督がやつつけ仕事をするなら何だろう？と考えた結果ですね。僕が好きだから取り入れたわけではなくて、むしろゾンビ映画はほとんど観てない（笑）。そもそも日本は火葬だから、ゾンビなんてあり得ないんです」

一克彦役に役所広司さんを起用した理由は？

「最初から役所さんに演じてもらいたいと思っていました。体つきとか、茶目つけとか、すごく克彦らしいんじゃないかと思って。『よく見るとカッコいいね』というセリフを、役所さんが言われたらおもしろいじゃないですか（笑）。脚本を読んだ役所さんが、オリジナル企画にもかかわらずやりたいと言ってくださったのでうれしかったです」

—幸一役の小栗旬さんは？

「俳優として好きだったことと、やっぱり監督の経験があることは大きかったですね。『シュアリー・サムデイ』のインタビューを読んでいたら、『毎日雨が降ればいいと思っていた』というような弱気なことが書いてあって（笑）、そういった経験と重ね合わせてできればいいんじゃないかと」

—映画監督である幸一のキャラクターには、やはり沖田監督自身が投影されているんですか？

「そうですね。『南極〜』を撮影していた時、どんな靴下をはいていけばいいかわからなくなったことがあるんです。心が弱いせいか、何かを選ぶのが怖い時がある。そういう仕事なのに（笑）。ただ、僕は有名人じゃないので、『僕を真似することだけはやめてほしい』と小栗さんに最初に伝えたんです。でも、現場では手本が他にいないから、結局僕みたいになってしまった。現場で観ていて、『あ、俺だ』って思いましたからね（笑）」



プロフィール

役所広司

PROFILE

1956年1月1日生まれ。長崎県出身。

96年、『Shall we ダンス?』『眠る男』『シャブ極道』で国内の14の映画賞で主演男優賞を独占。また、東京国際映画祭 主演男優賞受賞の『CURE』（97）、カンヌ国際映画祭 パルムドール受賞の『うなぎ』（97）、同映画祭 国際批評家連盟賞・エキュメニカル賞受賞『ユリイカ』（01）、シカゴ国際映画祭 主演男優賞受賞『赤い橋の下のぬるい水』（01）など、国際映画祭への出品作品も多く、数々の賞を受賞している。さらに、05年には『SAYURI』、続く06年にはカンヌ国際映画祭 監督賞、エキュメニカル賞、ゴールデングローブ賞 作品賞、米アカデミー賞 作品賞にノミネートされた『BABEL』に出演、国際的にも高い評価を受ける。08年のドービル・アジア映画祭において、これまでの映画出演とアジア映画への貢献に対して‘TRIBUTE’（賛辞式）を受け、また同年4月には国際映画祭 フィルム・マドリッドにおいて、『象の背中』の演技で最優秀俳優賞を受賞。09年には、主演の『ガマの油』で、初監督も務める。近作は、主演映画『十三人の刺客』『最後の忠臣蔵』（共に10）。11年公開作品に三池崇史監督作品『一命』（10月公開）、成島出監督作品『聯合艦隊司令長官 山本五十六』（12月公開）、12年には、モントリオール映画祭審査員特別グランプリを受賞した原田真人監督作品『わが母の記』が公開予定。

小栗旬

PROFILE

1982年東京都出身。TVドラマから活動を始め、映画の他、舞台、声優、CMと幅広く活躍する。TVドラマ「ごくせん」（02）「花より男子」（05）、映画『キサラギ』（07）などで頭角を現す。主な出演作に『クローズZERO』（07）『クローズZERO II』『TAJOMARU』（共に09）『踊る大捜査線 THE MOVIE3 ヤツらを解放せよ!』（10）『岳ーガクー』（11）がある。また蜷川幸雄演出の舞台「カリギュラ」（07）「ムサシ」（09）でも卓越した演技力を発揮し、『シュアリー・サムデイ』（10）では初監督を務めた。公開待機作に『宇宙兄弟』（12）がある。

沖田修一

PROFILE

1977年埼玉県出身。

日本大学芸術学部映画学科卒業。短編『鍋と友達』（02）が、水戸短編映像祭グランプリを受賞。初長編作品『このすばらしきせかい』（06）が公開。TVドラマの脚本・演出などを経て、監督・脚本を手掛けた『南極料理人』（09）がロングラン。同作では藤本賞新人賞、新藤兼人賞金賞を受賞するなど、監督としても高い評価を得た。



『キツツキと雨』公式ホームページ

<http://kitsutsuki-rain.jp/>

2月11日、全国ロードショー！！

沖田修一監督の本棚

<http://booklog.jp/users/kitsutsukirain>

沖田監督のおすすめの本をご紹介します。

是非ご覧ください！

映画『キツツキと雨』公開記念 役所広司&小栗旬&沖田修一監督インタビュー！

<http://p.booklog.jp/book/43993>

著者：キツツキと雨

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kitsutsukitoame/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43993>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43993>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.